2017 年度　博士論文

アフリカ系アメリカ人による「スピリチュアルズ（黒人霊歌）」の即興性について
―*Slave Songs of the United States*（1867）を基に

指導教授　（主）大島　博　特任教授　（副）星野　宏美　教授

キリスト教学研究科キリスト教学専攻　博士課程後期課程　5 年

13TH001K　　國友　淑弘

論文の目次

凡例
目次
序章……1
1. 概要　1
2. 先行研究及びその課題　7
2－1. 民俗学的興味と記述　7
2－2. 南部奴隷歌の採譜　9
2－3. 最初の南部「スピリチュアルズ」出版物　10
2－4. フィスク・ジュビリー・シンガーズと南部口承歌　11
2－5. 起源を問う民俗学的論争　12
2－6. 音楽学による分析研究の始まり　16
2－7. 「スピリチュアルズ」音楽研究の停滞と他の学際への展開　17
2－8. 「ブルーズ」、「ジャズ」分析におけるアフリカ音楽学の興隆と「スピリチュアルズ」に関する音楽学研究の課題　20
2－9. 「新音楽学」の展開に即した「スピリチュアルズ」の音楽学研究について　22
3. 資料について　24
3－1. 第１次資料：音楽学による分析対象となる収集された楽譜資料　24
3－1－1. 第１次資料Ａ：本論文で楽曲分析を行う楽譜資料　24
3－1－2. 第１次資料Ｂ：第１次資料Ａに対して比較が可能な類似楽譜資料　25
3－2. 第２次資料：視聴覚資料　26
3－3. 第１次、第２次資料を除く、研究上の参考となる文献資料　26
4. 方法　27

第１章　資料とする *Slave Songs of the United States* について……31
1. 出版に至る経緯　31
2. 編集者並びに採譜者及び楽譜提供者について　35
2－1. ウィリアム・フランシス・アレン　35
2－2. チャールズ・ピカード・ウェア　36
2－3. ルーシー・マッキム・ギャリソン　37
2－4. その他の採譜者及び楽譜提供者について　39
3. 構成、内容について　41
3－1. 「序論（Introduction）」について　42
3－1－1. 代表編者アレンによる 14 項目の奴隷歌に関する記述内容　42

3－1－2.　謝辞について　55
3－2.　「目次（Contents）」について　58
3－3.　「歌唱のための指示（Directions for Singing）」について　58
3－4.　「第 1 部から第 4 部（Part I- Part IV）」について　77
3－4－1.　収録楽譜の特徴　77
3－4－1－1.　ヴァリエーションとヴァージョン　77
3－4－1－2.　音楽記号について　79
3－4－1－3.　収集者及び楽譜提供者による記譜の違い　81
3－4－2.　収集された場所及び地域による曲の特徴　84
3－4－2－1.　第 1 部：サウスカロライナ、ジョージア、シー諸島を含む奴隷州南東部で収集された曲について　85
3－4－2－2.　第 2 部：デラウェア、メリーランド、ヴァージニア、ノースカロライナを含む奴隷州海岸線で収集された曲について　87
3－4－2－3.　第 3 部：テネシー、アーカンソー、ミシシッピ河を含む奴隷州内陸で収集された曲について　89
3－4－2－4.　第 4 部：フロリダ、ルイジアナを含む湾岸奴隷諸州、そして多方面の種々の曲について　91
3－5.　「編集者あとがき（Editor's Note）」について　92

第 2 章　*Slave Songs of the United States* のリズムについて……95
1.　リズム構造における先行研究　96
1－1.　スピリチュアルズのリズム研究　96
1－2.　20 世紀のアフリカ音楽学におけるリズム論　98
1－3.　スピリチュアルズ以外のアメリカ黒人音楽（ブルーズ・ジャズ・ポピュラー）におけるリズム研究　99
2.　リズム記譜における採譜及び編集者の知覚と腐心　100
3.　*Slave Songs of the United States* のリズム構造について　104
3－1.　2/4 拍子について　104
3－1－1.　舟歌のリズム　106
3－1－2.　残存する視聴覚資料のリズム　108
3－1－3.　クラーベについて　110
3－1－4.　クラーベへの変化　112
3－1－5.　アフリカンリズムの構造　113
3－2.　4/4 拍子について　115
4.　まとめ　119

第 3 章　*Slave Songs of the United States* の旋律及び和声について……121
1.　旋律及び和声における先行研究　122
1－1.　スピリチュアルズの旋律及び和声研究　122
1－2.　20 世紀のアフリカ音楽学における和声論　124
1－3.　スピリチュアルズ以外のアメリカ黒人音楽（ジャズ・ブルーズ・ポピュラー）における旋律及び和声研究　125
2.　編集者による記譜の傾向　127
3.　スケールについて　130
3－1.　*Slave Songs of the United States* のスケール　130
3－2.　4、7 度抜きペンタトニックの強調　131
3－3.　ドリアン・スケールと 2、6 度抜きペンタトニック・スケールについて　132
4.　ブルー・ノートについて　137
4－1.　クービックの「飛越唱法」と「好音響の理想」　141
4－2.　クチンベルの配列　145
5.　ヘテロフォニー唱法について　148
5－1.　アフリカ系民俗音楽のヘテロフォニー唱法に関する先行研究　149
5－1－1.　クービックのヘテロフォニー唱法　150
5－1－2.　塚田の「おおよその 3 度関係に基づく旋律形成」と「中心点の転位」　151
5－1－3.　ウォーターマンの「オーヴァーラッピング・コール・アンド・レスポンス」156
5－1－4.　ヘテロフォニー唱法に関する先行研究のまとめ　157
5－2.　*Slave Songs of the United States* のヘテロフォニー唱法について　158
5－2－1.　音が重複記譜されている箇所　158
5－2－2.　重複記譜の種類　162
5－2－2－1.　旋律及びフレーズからの強調　162
5－2－2－2.　倍音表記　163
5－2－2－3.　網目のような旋律　165
5－2－2－4.　呼唱と応唱の重複　168
6.　変化して行く歌唱法　169
7.　まとめ　171

第 4 章　*Slave Songs of the United States* の呼応と反復について……176
1.　呼応と反復に関する先行研究　176
1－1.　最も古いアフリカ人の呼応歌唱の記録　176

1－2.　呼応形式に関する先行研究　178
1－3.　呼応演奏に関する即興について　181
1－4.　反復について　182
2.　*Slave Songs of the United States* の呼応について　184
2－1.　呼応に関するアレンの記述　184
2－2.　*Slave Songs of the United States* の呼応分析対象曲　186
2－3.　ンケティアによる呼応分析との照合　188
2－4.　2 種類の呼応パターンとその分析　190
2－4－1.　歌詞の呼応パターン　190
2－4－2.　フレーズの呼応パターン　198
3.　*Slave Songs of the United States* の反復する歌詞句について　202
3－1.　一つのチューン内の歌詞の反復について　202
3－2.　4 種の反復パターン　205
4. まとめ　209

終章（結び） **213**
1.　リズムの考察における即興性について　213
2.　旋律及び和声の考察における即興性について　213
3.　呼応と反復の考察における即興性について　215
4.　各考察からまとめられる *Slave Songs of the United States* の即興性について　215
5.　バイブルベルトにおける即興性を帯びた宗教音楽の貢献と今後の研究の課題　217

巻末資料 1　*Slave Songs of the United States* 関係者の相関図 220
巻末資料 2　*Slave Songs of the United States* の収録曲名、拍子、弱起・強起、採譜者、採譜場所一覧表 221
巻末資料 3　*Slave Songs of the United States* 収録曲の調及びスケール（音階）並びに、旋律及び和声に関する特徴的箇所の一覧表 227
巻末資料 4　*Slave Songs of the United States* 収録曲の反復句及び節の分類一覧表 234
文献表 **242**

論文の要約

アメリカ南部の農村において、白人たちに監視、干渉されることのない場で口承により発展してきたアフリカ系アメリカ人による「スピリチュアルズ（黒人霊歌）」は、アメリカ民俗歌における最も大きな音楽ジャンルのひとつである。広く大衆に訴求力を持った「ポピュラー音楽」の研究に呼応するかのように、既に「ブルーズ」及び「ジャズ」研究では、20 世紀以降に興隆したアフリカ民族音楽学の新たな考察を踏まえた見直しがなされてきている。しかしながら「スピリチュアルズ」については、その社会学的及び文学的な考察においてはともかく、楽曲楽譜の只中に身を置いた音楽学的な考察の例は乏しい。本論文は、そこに新たな研究の意義を見出し、「スピリチュアルズ」の音楽的特徴とその発展に焦点を当てて考察するものである。

本論文が分析の対象の資料とする *Slave Songs of the United States*（1867）（以降、“*S.S.U.S.*” と表記）は、アメリカ北部の白人収集家が、南部において、アフリカ系アメリカ人の歌を初めて楽譜化した曲集である。この曲集は、元奴隷たちの人間としての尊厳を社会にアピールする目的で編纂されており、とりわけキリスト教信仰に強く根差したテキストを持つ歌が多く含まれる。しかしながら、これらの楽曲にはもともと楽譜が存在せず、その上楽譜に書き表すことの困難な、即興性を帯びた表現が用いられている。音声を介して言葉によるコミュニケーションと自己表現を行い、口承を中心に歌い継がれ、また創作されてきた彼らの音楽には、即興的創造と表現が伴うところに大きな特徴がある。したがって、*S.S.U.S.*の音楽学的アプローチにおいては、20 世紀のアフリカ音楽学研究によって示されてきた「リズム構造」、「旋律及び和声構造」という従来の研究要素に加え、それらと深く関連する「呼応形式」を含んだ「即興性」の考察が重要である。

本論文は、口承により発展してきたアフリカ系アメリカ人の初期宗教音楽としての「スピリチュアルズ」研究に、20 世紀に進展したアフリカ民族音楽学による先行研究の視点を新たに加えることにより、従来のアプローチでは捉えきれなかった、アフリカ系アメリカ人「スピリチュアルズ」の即興性の仕組みを明らかにすることを目的としている。

第 1 章では、第 2 章以降における音楽考察の前提として、資料となる *S.S.U.S.*について 3 点の分析及び考察を行う。1 点目は、先行研究者の論考を基に「出版に至る経緯」並びに「編集者並びに採譜者及び楽譜提供者」について述べた後、*S.S.U.S.*の掲載項目の順にしたがって、「序論（Introduction）」、「目次（Contents）」、「歌唱のための指示（Directions for Singing）」、収集楽譜の「第 1 部から第 4 部（Part I- Part IV）」、「編集者あとがき（Editor’s Note）」の内容確認を行う。2 点目は、楽譜資料である「収集楽譜　第 1 部から第 4 部」について、「ヴァリエーションとヴァージョン」、「音楽記号」、そして「収集者及び提供者による楽譜の違い」を基に、*S.S.U.S.*以降に出版された他の楽譜に見られない、記譜上における特徴について分析する。3 点目は、*S.S.U.S.*に収録された曲の収集分布図を基に、「収集さ

れた場所及び地域による曲の特徴」について分析する。最後に出版後の批評及び再版について述べる。

第 2 章では、*S.S.U.S.*収録曲のリズムについて、3 点の分析及び考察を行う。1 点目は、現存する視聴覚資料を基に新たに提示できる可能性のある歌の伴奏リズム（クラーベ）について、アフリカ音楽学及びポピュラー音楽の先行研究を基に、そのルーツであるアフリカンリズムに遡り、変化を容易にさせる仕組みについて考察を行う。2 点目は、代表編者であるW・F・アレンの記述並びに記譜の特徴から、歌唱及び曲のテンポに共通する構造について分析する。3 点目は、奴隷解放とスピリチュアル曲の普及及び研究に伴う歴史的経過を基に*S.S.U.S.*の収録楽譜とそれ以降の出版楽譜に使用されている拍子記号の相違及び変化について考察する。

以上のことから、大きく 3 点の特徴を導いている。先ず 1 点目の伴奏リズムについて、アメリカ南部スピリチュアルズの伴奏リズム、西インド諸島のクラーベ、そしてアフリカンリズムの各構造を観察すると、ルーツとなる複雑なアフリカンリズムは、アメリカ南部のスピリチュアルズのリズムへ至るにしたがって単純化される方向に変化している。2 点目に曲のテンポは、拍の構築を行う際、環境やそれに伴う動作などに準じている。3 点目に *S.S.U.S.* の出版以降、拍子記号は時の経過にしたがって 4/4 拍子に移行しており、その理由について、①時の経過に従い、演奏者の歌に伴う打楽器もしくは手拍子が少なくなってきているか、もしくは簡略化されてきている。②採譜者が歌に伴う打楽器及び手拍子のリズムに紛らわされることなく客観的に記譜している。③後の時代になる程、読譜及び演奏を容易にすることを目的に、読みやすさを優先して編集が行われているということを結果として導いている。

第 3 章では、*S.S.U.S.*収録曲の旋律及び和声について、4 点の分析及び考察を行う。1 点目は、E・サザーンが指摘するスケールについて、アフリカ起源の演奏法に起因する検証をG・クービックの論考を用いて考察する。2 点目はブルー・ノートの発現について二つの考察を行う。一つはクービックの「飛越唱法」及び、それに伴う「ホケト技法」から、個々の声が比較的ゆるく結びついて和声が形成されていることを示すと共に、「好音響を理想」として和声内の音程を微妙に変化させることによって発現されるブルー・ノートについて考察する。二つめは、北部カメルーンと北東ナイジェリアの国境近くにあるアダマウと呼ばれる山の中で使用されるクチンベルの記録があり、そのベルを使用して歌唱する際、話し言葉のイントネーションを保とうとすることから発現されるブルー・ノートについて考察を行う。旋律及び和声について 3 点目は、アフリカ及びアフリカ系アメリカ人音楽のヘテロフォニー歌唱に関連する 5 つの先行研究、①クービックの「飛越唱法」と「好音響の理想」の論考を基に、和音歌唱の際に発現されるもの。②クービックが「音響周波数の深さの構造を聴き取っている」と述べる論考を基に、微妙に音程がずれた旋律を複数人で歌うことによって発現されるもの。③塚田健一が示す「トゥワララ」歌唱における旋律形成を基に、おおよ

その 3 度関係に基づいて旋律線が比較的自由に形成されているもの。④旋律が 3 音配列の位置から他の位置に移される構造。⑤R・A・ウォーターマンの「オーヴァーラッピング・コール・アンド・レスポンス」による偶発的発現についての各分析及び考察を行う。旋律及び和声についての 4 点目は、3 点目に挙げた先行研究の各論考を基に *S.S.U.S.*収録曲の楽譜から音が重複記譜されている箇所を重点的に分析し、そこから伺えるヘテロフォニー歌唱についての考察を行う。

以上のことから、*S.S.U.S.*収録曲のヘテロフォニーについて 3 点の特徴を導いている。1 点目にヘテロフォニーは音量、旋律の高低、歌詞に基づいた感情の 3 つが併存しながら相互に作用されて生み出されている。2 点目に *S.S.U.S.*収録曲には、個々の声が比較的緩く結びついて形成されている和音が存在する。3 点目に *S.S.U.S.*収録曲の旋律線は比較的自由に形成されており、上下動が可能であるという結果を、その特徴として導いている。

第 4 章では、*S.S.U.S.*収録曲の呼応及び反復について、3 点の分析及び考察を行う。1 点目は、*S.S.U.S.*収録曲から呼応歌唱が明らかな曲を挙げ、J・H・K・ンケティアがまとめているアフリカ音楽の呼応形式と、*S.S.U.S.*の呼応形式の比較分析を行う。2 点目は、*S.S.U.S.*収録曲から、2 種類の呼応パターン（歌詞の呼応及びフレーズの呼応）の例を示し、呼応する形式の特徴について明らかにする。3 点目は、*S.S.U.S.*収録曲の反復句及び節の分類一覧表を基に、反復する節の構造パターンについて考察する。

以上のことから、①呼応については、その場に集う者たちの感情の共感を喚起することから始まると共に、②反復については、共感を喚起する歌詞並びに旋律フレーズが繰り返されることを明らかとしている。考察の結果、呼応形式とその反復はそもそも会話的傾向が強く、自分と相手（複数を含む）がおり、話す内容（テーマ）と音楽演奏を伴うことよって生み出されるという結論を導いている。

終章では、各章（リズム、旋律及び和声、そして呼応及び反復）の考察から導かれた *S.S.U.S.* の即興性について明らかにする。

先ず各章（リズム、旋律及び和声、そして呼応及び反復）の楽曲分析に基づいて導かれた即興性に関わる内容について以下の 3 点の確認を行う。1 点目に歌のテンポは、拍を刻む際、環境やそれに伴う動作に準じており、その時々の状況や動きに応じて即興的に変化する。2 点目に旋律は、話し言葉のイントネーションや言語音調が、歌い手の感情に伴って歌唱する音に作用し、即興的な響きを生み出す。3 点目に呼応は、その場に集う者たちの感情の共感を喚起することから始まり、その歌は即興である。反復はその場に集う者たちの共感を喚起する歌詞を伴ったフレーズが使用される。

次いで各要素の考察から導かれた即興性には繋がりがあり、相互に作用していることを結果として導いている。

最後にアメリカ合衆国南部のバイブルベルトにおける即興性を帯びた宗教音楽の貢献並びに今後の研究の課題について述べている。